

学校評議員会議事録（第2回）

日 時	令和 3年12月13日（月） 10時00分 ～ 12時00分	
会 場	北海道白糠養護学校 会議室	
出 席 者	学校評議員 4名	学校側 5名
出席者氏名	森下 智之 氏（白糠町教育委員会指導室長） 山田 雄大 氏（白糠町保健福祉部介護福祉課長） 小渕 隆司 氏（北海道教育大学釧路校 教授） 坂上 綾子 氏（北海道白糠養護学校PTA会長）	校 長 仲條 正輝 教 頭 大山 伸吾 事務長 後藤 裕志 教 諭 岩井由貴子 教 諭 犬養 幸恵

1 学校長挨拶

2学期に入り、宿泊的行事は実施できたが当初の予定時期から変更になり、それ以外の学校行事にも時期変更があった。そのうちのひとつである学習発表会は、「生き生きと努力をして笑顔あふれる」といった本年の「スローガン」にふさわしい内容であった。

本日は各学部主事からの説明と、重点的な取組であるオンラインの活用についての説明を聞いていただいた上で、評議員の方々の忌憚のないご意見を伺いたい。

2 説明事項

- (1) これまでの主な行事について ※教頭より行事内容についての説明
 - 運動会 ○白糠高校との交流及び共同学習 ○茶路中との交流
 - 北海道肢体不自由養護学校体育大会 ○遠隔社会見学（三内丸山遺跡）
 - 宿泊研修（中1・2年） ○見学旅行（高3） ○合同避難訓練 ○学習発表会
- (2) 重点目標に係る取組状況 ※教頭より取組状況についての説明
 - オンラインを活用した授業実践
 - キャリア教育に即した生涯学習に繋がる取組の推進
 - 新型コロナウイルス感染症対策の徹底と安心・安全な学校環境の構築と維持
- (3) 中学部の取組状況 ※中学部主事より取組状況についての説明
 - 教科横断的な取組について
 - 授業実践について
 - 経験領域の拡充について
 - 今後の課題について
- (4) 高等部の取組状況 ※高等部主事より取組状況についての説明
 - 系統や連続性を踏まえた教育的支援について
 - 評価をベースとした授業サイクルについて
 - 対面とICT及びオンラインのバランスの良い活用について
 - 今後の課題について

3 授業見学



4 評議

- (質問1) オンラインの活用について、抵抗を示すような人もいるのではないかと考えるが、実際のところ白糠養護学校の教師の意識はどうか？
→教師の中には知識のある人もいるが、最初から本格的に取り組むのは難しいので、できることから少しずつ取り組んでいる。そのため教師側からもいろいろなアイデアが出るようになった。
- (質問2) オンラインの活用について、生徒たちへの成果と課題などあるだろうか？
→生徒たちの方が覚えが早く回数を重ねるごとに身についていくようだ。課題としては、自立活動や教科によってそれぞれの生徒への教え方が変わってくることである。
- (質問3) 今日では一般的にもZ o o mなど活用しているが、学校でうまくいったものと失敗したものあれば教えて欲しい。
→朝の会や体育の前の体操で活用し、生徒の集中力を引き出すなどしてうまくいったと感じている。今後の課題は双方向での活用ができるかどうかである。
- (質問4) 校内にはパーティション等での感染対策が見受けられたが、新型コロナウイルス対応で特に困ったことはあるか？
→マスクを着けられない生徒もおり、無理はせず可能な方法で対応している。生徒の側と言うよりは教師の側でできることを考えている。
- (質問5) 学校での接種状況はいかがか？
→生徒、教師ともに全員接種済みである。教師は副反応を予想した対応が必要であった。
- (意見1) 授業参観や説明を聞いた中で、白糠養護学校は個に応じた学習を大事にしているなどという感想を持った。
- (意見2) オンラインの活用においては、ベテラン教師が若手教師に教わっているような話も聞いているので、できることから少しずつ取り組むことは良いと考える。
- (意見3) オンラインやI C Tを活用することは、それらが生徒たちにとって必要かどうかを考えることになり、ひいては授業の本質的な取組を考えることに繋がっていくのだと考える。
- (意見4) 遠隔社会見学の取組は、へき地でも皆で一緒に学べるという意義は大きいと感じた。一般的なオンラインよりももっとリアルで、まるでそこに本当に人がいるようだ、という意味で双方向性を感じた。
- (意見5) 教科横断的な取組や、個別と複数で学ぶ取組との違いを興味深く感じた。

5 次回予定について ※教頭より次回予定についての説明 第3回評議員会議は3月の予定である。

6 学校長挨拶

本日は貴重なご意見を伺うことができ、感謝申し上げたい。特に、オンラインやI C Tの活用については皆様からお褒めいただいた。1時間の授業のうち5分かからでも始めて、できることから取り組んだ結果だと感じている。またタブレットP Cで自作教材を活用する教師もいる。肢体不自由領域では特に有効な手段ではないかと考えている。今後は重点目標に掲げた「白糠スタイル」をどういう形にしていくか、深めて参りたい。

ここで職員のストレスチェック結果についても触れたい。本校ではストレスは相対的には低めだが性別によって量的負担の感じ方に違いが表れており、今後の課題と感じている。

最後に、来年1月4日から14日まで、本校の公開授業研究会が予定されており、You Tube限定配信で実施される。興味があれば是非視聴いただきたい。

